

15) 生活指導の一環として人形劇を試みて

国立療養所東埼玉病院

佐々木 つる子 長谷川 恵美子
景山 恭子 吉岡 桂子

< 目 的 >

昭和46年度より私達の受け持っているDMP児の生活指導の一環として、患児と職員による反省会を週一回の割でおこなっています。

そこで、とりあげられる問題は、日常生活全般にわたるものであり、目的とするところは、より健康な、楽しい共同生活をするためにはどのようにすればよいか、ということと、そのためのルールをつくることも目的の一つであります。

今までの傾向として、反省会でお互に納得づくで決めたこと、注意されたことでも、自覚の薄い子供の常として、必ずしも実行されず、患者はその後、しばしば注意を受けることが多いのが実状であり、それに対して、反発感を持つ患児も少なからずいて、反省会の効果は思うようにはあがりませんでした。この対策として、よりスムーズに、しかも楽しく、生活指導の効果をあげようと、患児自身による人形製作と、人形劇を試みました。

< 方 法 >

6才～12才までの42名を対象にして毎週月・木曜日の余暇時間を利用して、次の項目を実施しました。

(人形製作) ①頭づくり — はがき大のボール紙を筒状にし、指の太さにあわせ糸をまき、まわりに和紙をはる。

②新聞紙をまるめ、①で作った筒のまわりに丸くつけ、糸でかたくまきつける。さらに、そのまわりに和紙をはり、目・鼻・耳を形づくっていく。

③絵の具をぬり、目・鼻・耳を書き入れる。

④衣服を裁断し、縫いあわせる。

(上演) 最近の傾向として、車椅子のベルトをしていなかったり、保護帽をかぶらず注意することがしばしばあったので、安全をテーマに上演しました。

(結果) 人形製作の段階で、①と②において介助者の手を多く必要としました。なかでも、糸をまきつける動作が特にむずかしかったようです。④において、日頃針を持ったことのない、小学二・三年生の男子が非常に積極的に取り組んで意外な一面をみせてくれました。

上演の段階において、舞台が高いと、子供達の手が十分に上らず、人形がよくみえないので舞台を低くし、自分の顔を人形でかくすように演じていましたが、子供の中から「人形の洋服をかぶれば顔がかくれる」ということを考えだしました。

上演終了後の子供達の反応として、「もしかしたら、さの話ボクのことかも知れないな」という言葉が返ってきました。しかし、高学年の子供達からは「幼稚でつまらなかった。」という答が返って

きました。

これは、話の内容が低学年向きであったのでやむを得ないことであったと思われます。しかし、幼稚であるという言葉が返ってきたとはいえ、高学年の児童の中にも気をつけようという意識がみられるようになり、多少なりとも上演した効果はあったように思われます。

ただ、口先だけで注意を与えられるだけでなく、自分自身の日頃の姿を客観的な立場からみることによって、効果をあげることができましたので、今後とも続けていきたいと思えます。

16) 筋ジス児のレクリエーション活動について

国立療養所東埼玉病院

渋谷 斌
新堀 裕二

山川 和正

はりを持って過ごしていない筋ジス児たちの生活に変化を持たせ、生き生きとした生活を送らせたということ、生活指導の一環としてレクリエーションを実施した。

その活動は動機づけや興味を起させることに主眼をおき、その方法を次の二つに分けて実施した。その一つは、職員が意図的に計画し、実施するレクリエーション活動で、その主なものはクラブ活動パーティー、院外買物会、間食会、球技大会、季節の行事などである。これらの場合、参加患児を中心にした、成功の喜びの認定、経験の機会の関与などに留意し実施した。

二つ目は、患児が個人及びグループで自主的に実施するレクリエーションで、これは行動するレクリエーションと、観覧するレクリエーションとの二つに分けられ、行動の方は、野球・ホッケー・野球盤ゲーム・砂遊び・ブランコ乗り・車椅子競争・楽器演奏・ゴロ卓球などがあり、これらを自主的にに行っている。また、観覧するレクリエーションの方は、テレビ・ラジオ・音楽鑑賞・絵画・声や音楽の録音・読書などを好み、自主的にに行っている。これらのレクリエーションの場合、そのグループに入れられないため、傍観したり、そのグループになじめなくて、1人で過ごしていることがあるので、グループ及び患児を指導する必要がでてくる。そこで、心理的動揺の把握、活動に参加しやすい雰囲気づくりに留意し、新しいレクリエーションの試みをした。レクリエーション全体を通して、特に、年齢・性別・能力・興味・病状・人間関係の調整等にも気をくばった。

以上のようなことを子供たちに働きかけた結果、レクリエーションに対して、色々な意見をだしてくるようになり、それらをヒントにして、よりよい方向に改良したいいくつかの例を次にあげてみる。

野球の場合、患児は軽いプラスチックのバットを要求し、車椅子の状態のできるルールを考え、グローブのかわりに魚網を使用し始めた。魚網でキャッチし、ゴロは魚を抄うようなやり方でボールをとる。野球ができない場合は、病室で野球盤ゲームを楽しんでいる。

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

<目的>

昭和 46 年度より私達の受け持っている DMP 児の生活指導の一環として、患児と職員による反省会を週一回の割でおこなっています。